

第四章 精神と宗教

- |       |                                |             |
|-------|--------------------------------|-------------|
| 4 - 1 | 精神とは - ドイツ観念論とキリスト教思想 -        | 10/5        |
| 4 - 2 | 生の次元論と精神 - 新しい次元の創発性の理論化に向けて - | 10/19       |
| 4 - 3 | 社会システム論とパラドックス - ルーマン -        | 11/2, 9, 16 |
| 4 - 4 | カオスと自己組織化                      | 11/30, 12/7 |
| 4 - 5 | まとめ                            | 12/14       |

第四章 精神と宗教4 - 1 精神とは - ドイツ観念論とキリスト教思想 -4 - 2 生の次元論と精神4 - 3 社会システム論とパラドックス  
- ルーマン -

1. 社会システム論と宗教論
2. ルーマンの社会システム論と宗教
3. 宗教とパラドックス

2. ルーマンの社会システム論と宗教

## (1) 後期ルーマンとハーバーマス論争

1. 意味は、自我と他者とのコミュニケーション過程にその成立の場を有している。この主体の操作から独立したコミュニケーション過程を主題化したのが社会システム。

## (2) コミュニケーションの全体性としての社会システム

2. オートポイエーシス：システムは自らの働きによって自身の組織（要素と統一性）を継続的に産出する。閉鎖性と開放性とは相互補完的な関係にある。オートポイエーシスのシステムは自律的(Autonomie)ではあるが、自足的(Autarkie)ではない  
細胞、神経システム、脳は、閉鎖的な自己参照的システムである。
3. 自己参照性（自己関係・自己準拠） 次元の独立性  
閉鎖性に基づく開放性 = 自己同一性・道徳による精神の成立（ティリッヒ）
4. 心的システムの要素：思考内容、表象。脳と意識は別々に働くが互いに依存的。  
構造的カップリング(strukuelle Kopplung)：システム間の依存 / 非依存
5. 社会の構成要素は人間ではなく、コミュニケーションである。可能なコミュニケーションの全体としての社会。人間は社会システムの環境である。  
意識とコミュニケーションとは構造的にカップリングしている。
6. 人間は多くのシステムの複合体(システムではない)  
次元論：システムは、先行するシステムの創発的な秩序として生成する（創発性）  
人間存在（生）において、こうして生成した諸次元が統合されている  

	生命システム	心的システム	社会システム
物質・無機的	有機体・生命	心	精神 歴史

### (3) コミュニケーションと観察

7. コミュニケーションの三要素：情報、伝達、理解

8. コミュニケーションは人格を介して行われる。コミュニケーション・システムは自分自身を行為システムとして理解しており、そのとき、それはある人格に帰属させられている（コミュニケーションは、自らに先行するコミュニケーションをある人格の行為として処理する。コミュニケーションを伝達行為へ縮減し個々の人格に帰属させる）。

9. 観察：観察とは、一つのコミュニケーションを他のコミュニケーションより区別し、伝達者に帰属する行為として構成する操作に他ならない。

観察という操作は、無限の操作となり、コミュニケーションの過程における意味の生成は、コミュニケーション過程内部では無限遡及することになり決定不可能となる（無限遡及のパラドックス）。コミュニケーション過程は、発話者間の相互モニター過程であり、コミュニケーションの意味の最終的確定は、後続の理解になかを継続的に先送りされて行き、絶対的な意味の定点は現れない。

10. 自己観察のパラドックスは、この自己自身においては観察されない（パラドックスにかかわらず、コミュニケーションは滞りなく継続されて行く）。これがパラドックスとして観察されるのは、他者観察においてである。

### (4) 宗教とパラドックスの脱パラドックス

11. メディア：言語 / マス・メディア（不特定多数の人々にメッセージを伝達する） / 象徴的に一般化されたメディア（権力、真理、貨幣、愛、信仰）

受け手の受容を促進するように動機付け、拒絶のチャンスを減退させるメディアは、二項的なコードに基づいて、個々のコミュニケーションを二値的に区分する。選好コード：選好の有価値 / 無価値の二元化

12. 宗教と信仰コード

- ・ 宗教的コミュニケーションにおいて成果を保証するメディアは（象徴的に一般化されたメディア）は、信仰である。信仰コードは、「内在性 / 超越性」の区別によって機能する。
- ・ 意味の確定のために、諸可能性の全体を視野に入れようとするとき、見渡した諸可能性がさらなる諸可能性（地平）に取り囲まれていることに気づかざるを得ない。意味の最終確定のための地平はどこまでも到達不可能であり、意味は規定不可能なままである。超越性とは、意味の最終的規定不可能性を指示している。
- ・ 宗教的コミュニケーションは、規定可能性 / 規定不可能性が同時に現前するという問題に関わっており、超越性が単なる意味の諸可能性の過剰のままにとどまらず、内在性の否定として操作されるためには、超越性は独自の形態（神、霊、道など）という仕方与えられねばならない。このようにして、宗教は規定不可能な世界を規定可能な世界（システムと環境が構造的に関係づけられている世界）へと転換することなのである。また、この超越性に独自の形態は、暗号と呼ばれたものであり、超越性が暗号化された規定不可能性として一つの選択肢として指示されるとき、コミュニケーションは宗教的となる。

### 3 . 宗教とパラドックス

#### ( 1 ) キリスト教思想におけるパラドックスの諸レベル

The Christian assertion that the New Being has appeared in Jesus as the Christ is paradoxical. It constitutes the only all-embracing paradox of Christianity. Whenever the word "paradox" and "paradoxical" are used, a semantic investigation is necessary.

The paradoxical must be distinguished from the following: the reflective-rational, the dialectical-rational, the irrational, the absurd, and the nonsensical.

(Paul Tillich, Systematic Theology. vol.2, The University of Chicago Press 1957, p.90)

#### 1 . パラドックス - 論理的意味論的 (形式)

・テトス 1.12 : 彼らのうちの一人、預言者自身が次のように言いました。「クレタ人はいつもうそつき、ノ悪い獣、怠惰な大食漢だ。」

・自己言及、無限遡及、否定と肯定の同時

R.M.セイズブリー 『パラドックスの哲学』勁草書房

大出 晃 『パラドックスへの挑戦 ゲーデルとボア』岩波書店

#### 2 . 神学的 (内容): 三位一体論、両性論、受肉、復活、義認

キルケゴール 『哲学的断片への結びとしての非学問的あとがき』

相対的と絶対的

Wenn die Subjektivität, die Innerlichkeit die Wahrheit ist, so ist die Wahrheit objektiv bestimmt das Paradox; und das, daß objektiv die Wahrheit das Paradox ist, zeigt gerade, daß die Subjektivität die Wahrheit ist, da ja die Objektivität abstößt, und das Abstoßen der Objektivität oder der Ausdruck für das Abstoßen der Objektivität die Spannung und der Kraftmesser der Innerlichkeit ist. Das Paradox ist die objektive Ungewißheit, die der Ausdruck für die Leidenschaft der Innerlichkeit ist, in der gerade die Wahrheit besteht.

(Sören Kierkegaard, Abschließende unwissenschaftliche Nachschrift zu den Philosophischen Brocken. Erster Teil, GTBSiebenstern, S.195f.)

Der Satz, daß Gott in menschlicher Gestalt dagewesen ist, geboren worden ist, gewachsen ist usw., ist wohl das Paradox sensus strictissimo, das absolute Paradox. Als das absolute Paradox aber kann es sich nicht zu einem relativen Unterschied verhalten. Das relative Paradox verhält sich zu dem relativen Unterschied zwischen mehr oder weniger schlaun Köpfen, aber das absolute Paradox, gerade weil es das absolute ist, kann sich nur zu dem absoluten Unterschied verhalten, durch den der Mensch von Gott verschieden ist; (208f.)

#### 3 . レトリカル (効果)

反常識 (para+doxa) の効果、驚き・発見・震撼・転換

#### ( 2 ) ルーマンとティリッヒ

#### 4 . 暗号によるパラドックスの脱パラドックス化のパラドックス

#### 5 . 宗教と文化 : 意味世界とその根拠

- ・意味：全体と部分（循環、要素間の関係性＜差異と類似＞、オートポイエシスの自己参照構造）  
人間経験の有意義性とその破綻（不幸） 本質的不安定さ（無根拠・偶然性）
- ・宗教：意味システムの不安定さの自覚と最終的根拠の提示  
パラドックスの脱パラドックス化、そのための暗号（超越の形態化）  
ヒエロファニー

6．宗教システムを外部から観察する

宗教システム自体の無根拠性・パラドックス

7．神の根拠は？

神から神性へ、神と神性との二重化あるいは神秘主義

神／世界（超越／内在）の区分を、超越内へと遡及し、同時に超越に留まる  
超越と内在化する超越の区分へと転換

（3）宗教か自然主義か

8．世界を説明する二つのシステムと相互論駁不可能性

It seems, then, that the universe maintains its inscrutable ambiguity. In some aspects it invites whilst in others it repels a religious response. It permits both a religious and a naturalistic faith, but haunted in each case by a contrary possibility that can never be exorcised. Any realistic analysis of religious belief and experience, and any realistic defence of the rationality of religious conviction, must therefore start from this situation of systematic ambiguity.

(John Hick, *An Interpretation of Religion. Human Responses to the Transcendent*, Yale University Press 1989, p.124)

9．論理的レベルで決着がつかないとき、どこで決着がつくか（認知可能性）

実践的な論証あるいは終末論的論証 (eschatological verification)

John Hick, *Theology and Verification*, in: Paul Badham (ed.), *A John Hick Reader*, 1990  
pp.68-87

Having noted this possibility I will only express my personal opinion that the logic of the New Testament as a whole, though admittedly not always its explicit content, leads to a belief in ultimate universal salvation. However, my concern here is not to seek to establish the religious facts, but rather to establish that there are such things as religious facts, and in particular that the existence or non-existence of the God of the New Testament is a matter of fact, and claims as such eventual experiential verification. (86)

（4）社会システム論から次元論の具体化へ

10．人間理解：人間存在における諸次元の統一性・多次元的統一性としての生

人間は多くのシステムの複合体（システムではない）

- ・自己参照性（自己関係・自己準拠） 次元の独立性
- ・生のダイナミズム：自己同一性、自己創造、自己超越

- 閉鎖性に基づく開放性 = 自己同一性・道徳による精神の成立（ティリッヒ）
- ・精神の次元（先行する諸次元を前提として成立する閉鎖的な自己参照システム）
    - 道徳（精神的主体の成立） 文化（意味世界の創造）
    - 宗教（パラドックスの脱パラドックス化）
- 11．次元論：システムは、先行するシステムの創発的な秩序として生成する（創発性）
- 人間存在（生）において、こうして生成した諸次元が統合されている
- |        |        |         |
|--------|--------|---------|
| 生命システム | 心的システム | 社会システム  |
| 物質・無機的 | 有機体・生命 | 心 精神 歴史 |
- 12．新しい次元の創出はいかなる仕方で理解できるのか
- ・カオス、自己組織化、全体論的秩序の生成という問題へ
  - ・物質から生命、生命から心、心から社会
- 比較的明確な理論化がなされている議論を一般化する
- ルーマン、ホワイトヘッドの方法
- 13．神はこの創出性にいかに関わるのか
- 神は最高位の全体論的概念

<文献>

- 1 . Hans-Ulrich Dallman, *Die Systemtheorie Niklas Luhmanns und ihre theologische Rezeption*, Kohlhammer 1994
- 2 . Ingolf U. Dalferth, *Evangelische Theologie als Interpretationspraxis*, Evgangelische Verlagsanstalt 2004
  - II. Theologie als Interpretationspraxis
  - C) Kommunikation des Evangelium